

# LMcorsa

**60**  **H.YOSHIMOTO**  
 **R.MIYATA**

## SUPER GT 2019 Race Report Rd.3 Suzuka GT

5月25日 | 天候：晴れ | コース：鈴鹿サーキット | 路面：ドライ

### Qualifying Day Summary

季節外れの気温上昇によって真夏日となった予選は  
公式練習の調子を維持することができず、予選Q2進出を逃す  
300kmの決勝レースは20番手から追い上げを期待

### Qualifying Day

ゴールデンウィークに実施された前戦のFUJI GT 500km RACEは、22番手から驚異的な追い上げをみせて9位でフィニッシュしたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3。開幕戦は降雨によりレースが中止となったが7位となっていて、開幕から2戦連続でポイントを獲得したこととなる。



しかし、両ラウンドともに予選では思うようなパフォーマンスを発揮できていないこともあり課題はある。チームは第2戦終了後の5月11日

-12日にオートポリスで開催されたメーカーテストに参加し、その後はマシンのメンテナンスとデータ解析などに時間を費やした。

第3戦の「SUZUKA GT 300km RACE」は鈴鹿サーキットが舞台で、5月25日（土）に公式練習と予選、26日（日）に決勝レースが実施される。前戦はGT500クラスに宮田莉朋選手が参戦したためにドミニク・ファーンバッハー選手が助っ人として加わったが、今戦は宮田選手が戻ってきたので、吉本大樹選手と宮田選手のレギュラードライバーがSYNTIUM LMcorsa RC F GT3のステアリングを握ることになった。2人のドライバーのコンビで昨シーズンは5位入賞を飾ったこともあり、今回も上位入賞が期待された。

レースウィークの鈴鹿サーキットは、搬入日となった24日から季節外れの熱波に襲われて真夏日となる。25日の予選日も最高気温の予想が33℃となっていて、ドライバーやメカニックなどは厳しい戦いを強いられた。

## Qualifying Day

公式練習は予定通りの8時50分から10時35分までの1時間45分間に亘って行なわれ、最後の20分はGT500クラスとGT300クラスの10分間の専有走行に割り振られている。

SYNTIUM LMcorsa RC F GT3にまず乗り込んだのは吉本選手で、ピットアウトから4周を走行して持ち込みのセットアップを確認する。続いて宮田選手が5周を周回し、再び吉本選手が走行をスタート。インラップを含めると3周目の最終コーナー立ち上がりで、ダンパーがフルボトムしたことによりスピンを喫してしまう。



SYNTIUM LMcorsa RC F GT3はエスケープゾーンのグラベルにはまってしまい、このアクシデントにより赤旗が提示され公式練習は中断。吉本選手はマシンをピットに戻し、損傷はなかったが各部のチェックなどのために30分ほどの時間を要してしまう。公式練習の残り時間約30分で再びコースインし、吉本選手と宮田選手が最終的な状況確認を行なう。公式練習のベストタイムは、GT300クラスの専有走行時に記録した1分59秒

435で、29台中14番手の結果となった。

### <予選>

公式練習後に実施されたサーキットサファリでもセットアップを進めたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、14時40分から14時55分に掛けて実施された予選Q1に挑む。

予選Q1を担当した吉本選手はすぐにピットアウトせずに状況を見守る。予選時間が残り11分となったところでコースインし、インラップと翌周はタイヤやブレーキに熱を入れて3周目にアタックを行なう。ミスなく1周を走り切るが公式練習のベストタイムを上回ることができず、1分59秒582のタイムを記録するに留まる。このタイムを記録した時点では14番手で、予選Q2に進出できる16台に残れるかギリギリの状態。

その後、クラッシュ車両の回収のために一時中断となる。残り4分で再開された予選Q1は最後にタイムアップを果たしたマシンがいたため、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は20番手となり予選Q2進出を逃してしまった。

昨シーズンは好調さを示しマシンと鈴鹿サーキットの相性は良いはずだったが、予選は思わぬ苦戦となった。明日の決勝レースは20番手からのスタートとなるが、前戦でも追い上げてポイント圏内でフィニッシュしているため諦めず300kmのレースを戦っていく。



## Team Comment

---



Director :飯田 章

予選は想像していた結果が出ずに歯がゆい思いをしています。開幕戦から3レースともに予選では苦戦を強いられていて、それぞれの原因は異なるのですが解決策を見つけなければいけません。ドライバーもチームも頑張ってはいるのですが、結果が付いてきていない状況です。明日の決勝レースは気持ちを切り替えて、ポイント圏内に向けて戦っていきます。



Driver :吉本 大樹

公式練習のスピンはセットが合っていないなく、ダンパーがフルボトムしたことによって起きました。原因が分かっているので、これは不安要素ではありませんでした。公式練習のフィーリングは悪くなく、適切なセットアップも見つかったので予選Q2への進出は可能だと感じていました。しかし、予選Q1で乗ってみるとまったく曲がらないマシンになっていました。決勝レースまでに原因を追及して、追い上げるレースが出来ればと思います。



Driver :宮田 莉朋

公式練習はあまり走行時間がなかったために、ライバル勢に対してどのくらいの位置にいるのかわかりませんでした。それでも1分59秒台が最後に出たので、予選ではこのタイムを上回ることはできるはずでした。それが公式練習のベストタイムに届かず、予選Q2に進出できないとは想定していませんでした。今シーズンは新たにダンロップタイヤを履いているのでチャレンジは必要ですが、開幕戦から歯車が噛み合いません。解決策を見つけて、明日の決勝レースに挑みたいです。

